

課題 10 解説

桂田祐史

2013年7月17日

1 課題

- (1) Mathematica に、 $\cos \frac{2\pi}{n}$ ($n = 1, 2, \dots, 20$) を計算させなさい。(結果を見て納得が行きますか?)
- (2) $\sum_{k=1}^3 \frac{1}{2^k}$, $\sum_{k=1}^5 \frac{1}{2^k}$, $\sum_{k=1}^{10} \frac{1}{2^k}$, $\sum_{k=1}^{50} \frac{1}{2^k}$ を計算せよ (なるべくユーザー定義関数を使うこと)。また、それらの値を正確に小数に直せ (十進法では有限小数というのはすぐ分かりますね?)。
- (3) 与えられた $\alpha > 0$ に対して、 $\sqrt{\alpha}$ の近似値を求めるために Newton 法

x_1 は適当に与える,

$$x_n = x_{n-1} - \frac{x_{n-1}^2 - \alpha}{2x_{n-1}} = \frac{1}{2} \left(x_{n-1} + \frac{\alpha}{x_{n-1}} \right) \quad (n = 2, 3, \dots)$$

が利用できる¹。実際にこれを用いて $\sqrt{3}$, $\sqrt{21}$ の近似値を求めよ。やはり計算の仕方を工夫すること。また得られた結果の精度についても検討せよ。

- (4) 次のどちらか一方を解け。
- (a) 図 1 を再現せよ。(色々な描き方がありますが。楕円面と平面は別々に描いてから合成出来ることを知っておくと、自由度が上がるかも。)
- (b) 円錐を描け。ただし Mathematica の命令 `Cone[]` は使わないでやること。

(注意 3次元グラフィックスは、EPS 形式で出力すると、ファイル・サイズが非常に大きくなり、TeX 文書に取り込めなかったり、Oh-o! Meiji にアップロード出来なくなったりするので、一度 JPEG 形式で出力してから、jpeg2ps で EPS 形式に変換することを勧めます。)

2 解説

- (1) $\cos \frac{2\pi}{n}$ を与える関数を定義しておきましょう。

```
f[n.]:=Cos[2Pi/n]
```

$n = 1, 2, \dots, 20$ に対して計算するには、`Table[]` が便利でしょう。

¹Newton 法の一般式は $x_{n+1} = x_n - f'(x_n)^{-1}f(x_n)$ で、 $f(x) = x^2 - \alpha$ について適用すると上の式が得られる。

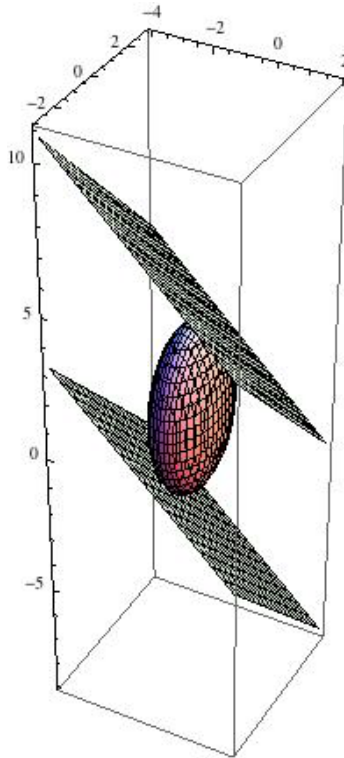


図 1: $\frac{(x+1)^2}{1} + \frac{y^2}{4} + \frac{(z-1)^2}{9} = 1$ と接平面 $x+y+z = \pm\sqrt{14}$ (訂正しました)

Table[f[n], {n, 1, 20}]

$$\left\{ 1, -1, -\frac{1}{2}, 0, \frac{1}{4}(-1 + \sqrt{5}), \frac{1}{2}, \sin\left[\frac{3\pi}{14}\right], \frac{1}{\sqrt{2}}, \cos\left[\frac{2\pi}{9}\right], \frac{1}{4}(1 + \sqrt{5}), \cos\left[\frac{2\pi}{11}\right], \frac{\sqrt{3}}{2}, \cos\left[\frac{2\pi}{13}\right], \right. \\ \left. \cos\left[\frac{\pi}{7}\right], \cos\left[\frac{2\pi}{15}\right], \cos\left[\frac{\pi}{8}\right], \cos\left[\frac{2\pi}{17}\right], \cos\left[\frac{\pi}{9}\right], \cos\left[\frac{2\pi}{19}\right], \sqrt{\frac{5}{8} + \frac{\sqrt{5}}{8}} \right\}$$

$p_k := 2^{2^k} + 1$ ($k = 0, 1, 2, \dots$) とおくと、 $n = 2^m \prod_{p_k \text{ 素数}} p_k^{e_k}$ ($m \in \mathbb{N} \cup \{0\}$, $e_k = 0, 1$) の形をした自然数

n に対して、 $\cos \frac{2\pi}{n}$ は定規とコンパスで作図できることは、良く知られていますが、 $\cos \frac{\pi}{8}$, $\cos \frac{2\pi}{17}$ は計算してくれていません。 n 。特に前者はそんなに面倒な形にならないはずですが…後者はすさまじい形になりますが、見たことありますか？

注意 横に長い式をどうやって 2 行に切るかですが、簡単に切れない理由は、`\left` と `\right` ではさんであるせいです。そこで、(1) `align*` 環境を使う、(2) `\left\{ 長い式 \right\}` を

```
\left\{ 式の前半 \right. \\
\left. 式の後半 \right\}
```

としてみました。これは $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ の知識を使った解決策ですが、Mathematica の段階で二つに分けて表示するのも考えられます。例えば

```
Table[f[n],{n,1,5}]
```

```
Table[f[n],{n,6,10}]
```

- (2) やはり $\sum_{k=1}^n \frac{1}{2^k}$ を計算する関数を作ろう。

```
f[n]:=Sum[1/2^k,{k,1,n}]
```

```
f[{3,5,10,50}]
```

```
{7/8, 31/32, 1023/1024, 1125899906842623/1125899906842624}
```

```
N[%,20]
```

```
{0.87500000000000000000, 0.96875000000000000000, 0.99902343750000000000, 0.999999999999991118}
```

これから (小数表示については「多分」)

$$\sum_{k=1}^3 \frac{1}{2^k} = \frac{7}{8} = 0.875,$$

$$\sum_{k=1}^5 \frac{1}{2^k} = \frac{31}{32} = 0.96875,$$

$$\sum_{k=1}^{10} \frac{1}{2^k} = \frac{1023}{1024} = 0.9990234375,$$

$$\sum_{k=1}^{50} \frac{1}{2^k} = \frac{1125899906842623}{1125899906842624} = 0.999999999999991118 \dots (\text{まだ途中})$$

結果を眺めていると、分母が 2^n であることに気づく (等比数列の和の公式を思い出せば、そうなることを証明も出来るでしょう)。分母が 10^n , 分子が整数の形に出来るので、小数点以下 n 桁あれば正確に小数表示できるはずです。そこで

```
g[n.]:=N[f[n],n+5]
```

```
Table[g[n],{n,{3,5,10,50}}]
```

```
{0.87500000,0.9687500000,0.999023437500000,0.999999999999999111821580299874767661094665527343750000}
```

5桁分の余裕をみて、小数表示してみた。これから

$$\sum_{k=1}^{50} \frac{1}{2^k} = \frac{1125899906842623}{1125899906842624} = 0.99999999999999911182158029987476766109466552734375$$

らしいことが分ります。

大体期待通りですが、最後だけ0が5個でなく4個しかついていません(小数点以下55桁まで表示してくれるように指示したつもりですが54桁までしか表示していません)。この理由は分かりません(関数N[]の仕様の問題?)。本当にそれ以降0が続くのか続かないのか、不安ならばf[n]に10ⁿをかけたものを計算してみれば良いでしょう。

```
g[n.]:=f[n]10^n
```

```
g[{3,5,10,50}]
```

```
{875,96875,9990234375,99999999999999911182158029987476766109466552734375}
```

これから、既に上にあげたn=3,5,10,50の場合の小数表示が正しいことが分ります。

- (3) 「簡単なユーザー関数の定義の仕方と応用例 (2) 数列」²を参考に、漸化式を用いて数列を計算する関数x[]を作ってみましょう。

まず√3の計算です。

²<http://www.math.meiji.ac.jp/~mk/syori2/mathematica/node47.html>

こちらも大体うまく行っているようです。 $\sqrt{3}$ と比べて $\sqrt{21}$ は大きいので、初期値 1 の精度が不十分なせいか、第 10 項は、まだ 100 桁精度になっていないようです。

上では、関数の再帰的定義を用いましたが、十進 BASIC でやったように、For[] で計算することも可能です。というか、こちらの方が素直かもしれません。

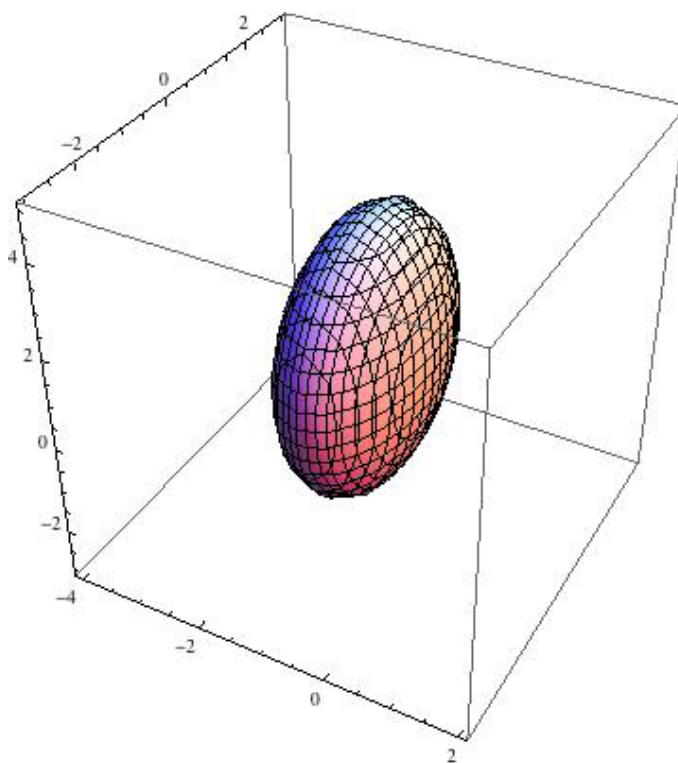
```
x[1] = 1
```

```
1
```

```
For[i = 1, i ≤ 10, i++, x[i + 1] = (x[i] + a/x[i])/2]
```

(4) $(x + 1)^2/1 + y^2/4 + (z - 1)^2/9 = 1$ を描くには、素直に等値面として

```
g1 = ContourPlot3D[(x + 1)^2/1 + y^2/4 + (z - 1)^2/9 == 1, {x, -4, 2}, {y, -3, 3}, {z, -3, 5}]
```

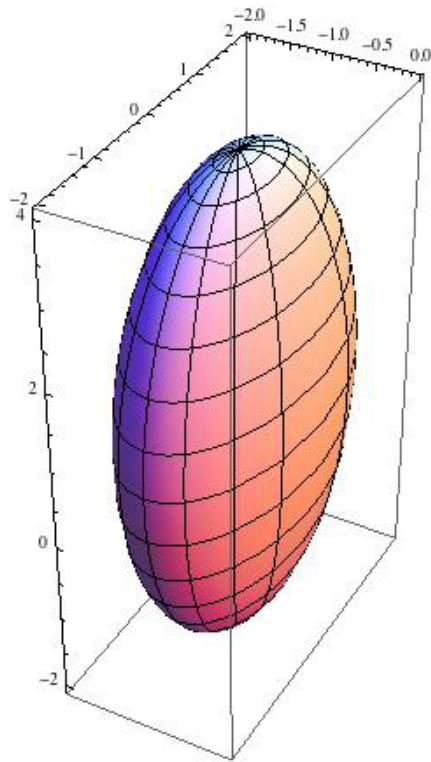


あるいは

$$\begin{cases} x + 1 = \sin \theta \cos \phi \\ y = 2 \sin \theta \sin \phi \\ z - 1 = 3 \cos \theta \end{cases} \quad (\theta \in [0, \pi], \phi \in [0, 2\pi])$$

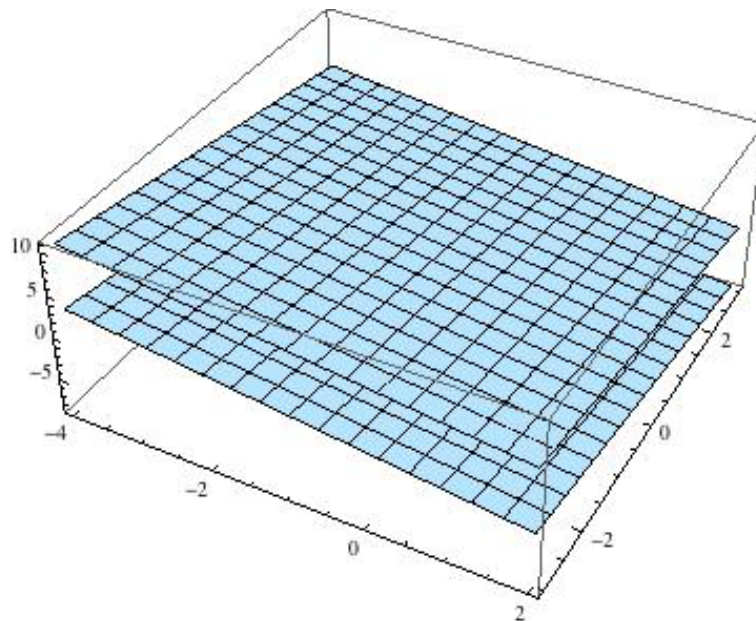
というパラメータ表示を使って、


```
g1a = ParametricPlot3D[{-1 + Sin[t]Cos[p], 2 * Sin[t]Sin[p], 1 + 3Cos[t]}, {t, 0, Pi}, {p, 0, 2Pi}]
```



接平面はグラフ $z = -x - y \pm \sqrt{14}$ として描くのが簡単そうです。

```
g2 = Plot3D[{-x - y - Sqrt[14], -x - y + Sqrt[14]}, {x, -4, 2}, {y, -3, 3}]
```



```
Show[g1, g2, BoxRatios → Automatic, PlotRange → All]
```

```
Show[g1a, g2, BoxRatios → Automatic, PlotRange → All]
```

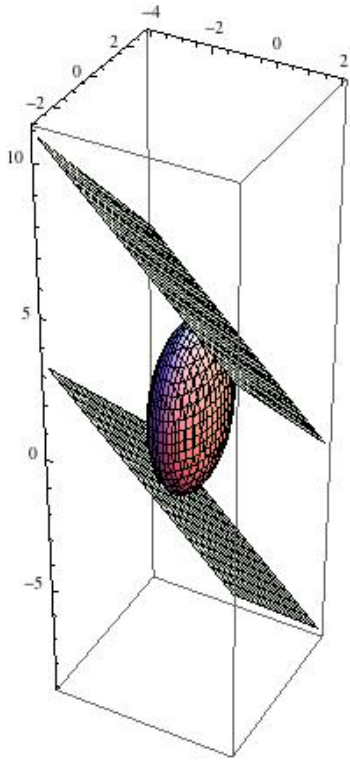


図 2: ContourPlot3D[] 使った方

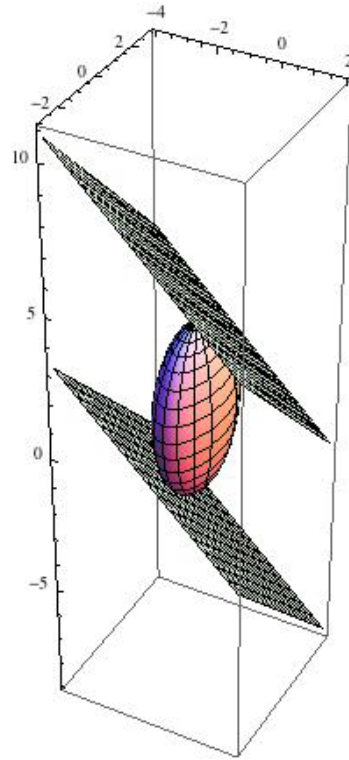
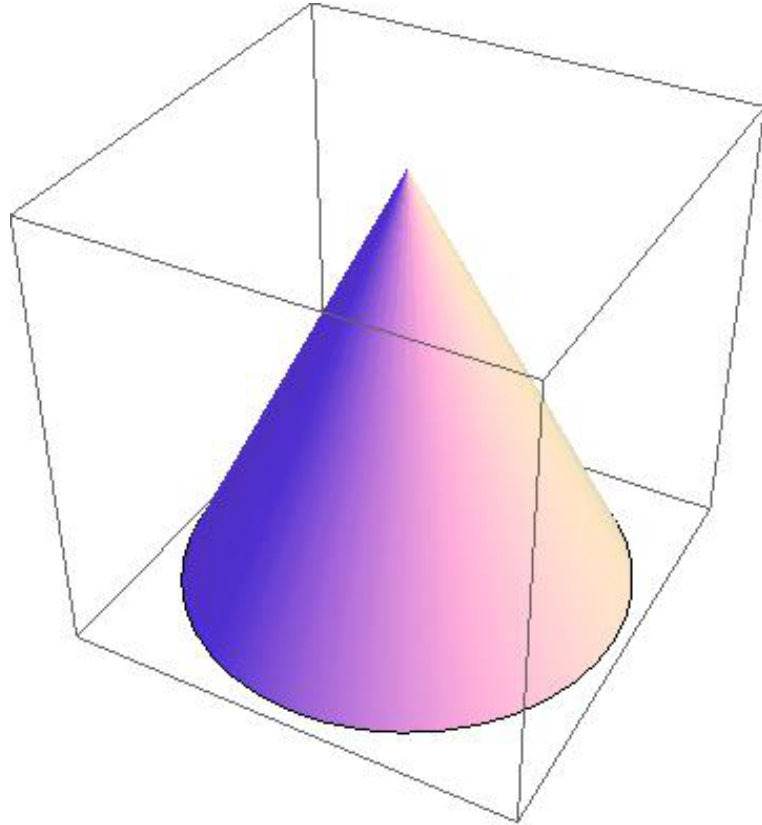


図 3: ParametricPlot3D[] 使った方

- (5) まず、課題の指示とは違うけれど、Mathematica のグラフィックス・プリミティブ Cone[] を使って描いてみます。

```
Graphics3D[Cone[]]
```



Mathematica のグラフィックス・プリミティブに慣れるというのも有意義なのですが、ここは円錐を式で表現して描くという問題です。

$z = \sqrt{x^2 + y^2}$ で OK のはず。

```
Plot3D[Sqrt[x^2 + y^2], {x, -1, 1}, {y, -1, 1}]
```

イメージと違う。いや、まあ正しいんだけど。

ひっくり返して、高くしましょう。ついでに描画範囲を円盤にすると、ミッキーの帽子風になります。

```
Plot3D[-5Sqrt[x^2 + y^2], {x, -1, 1}, {y, -1, 1},
  RegionFunction -> Function[{x, y, z}, x^2 + y^2 < 1], BoxRatios -> Automatic]
```

パラメーター曲面

$$x = r \cos \theta, \quad y = r \sin \theta, \quad z = -5r$$

としても表せます。

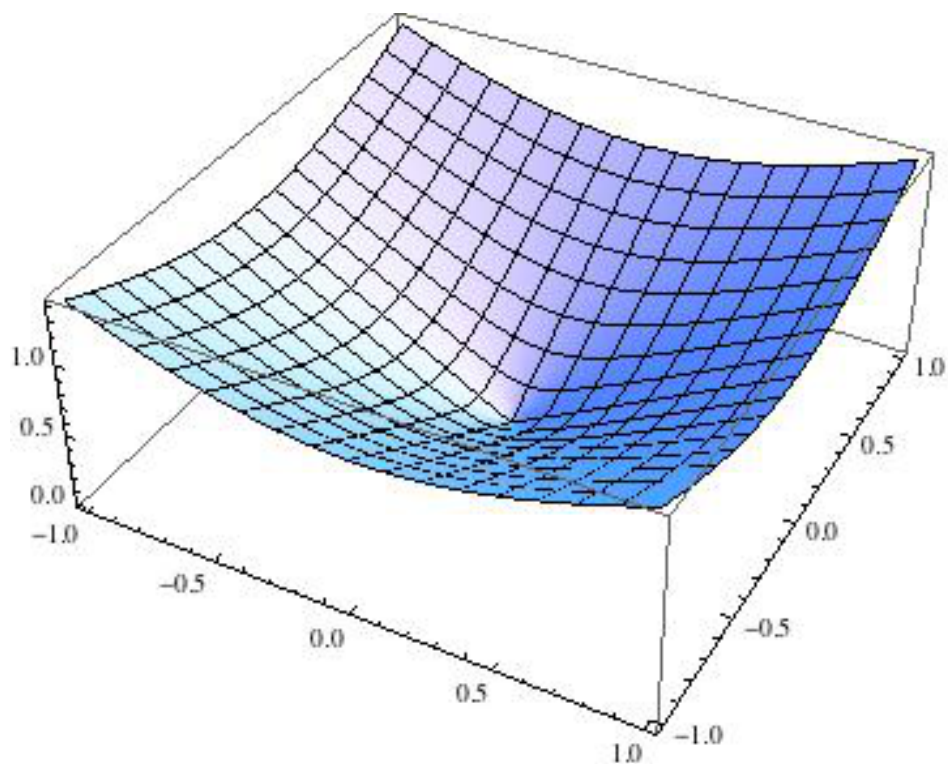


图 4: $z = \sqrt{x^2 + y^2}$

```
ParametricPlot3D[{r * Cos[t], r * Sin[t], -5 * r}, {r, 0, 2}, {t, 0, 2Pi},  
BoxRatios -> Automatic]
```

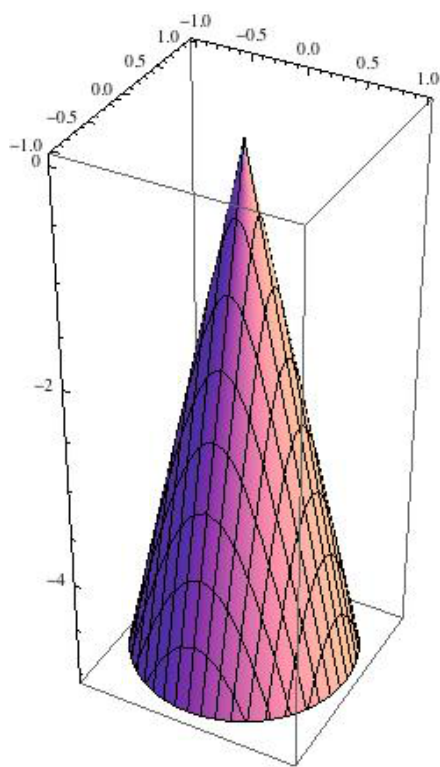


图 5: $z = -5\sqrt{x^2 + y^2}$

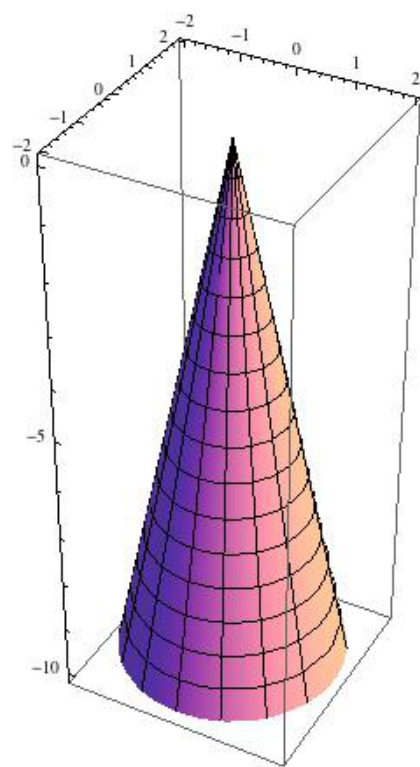


图 6: $x = r \cos \theta, y = r \sin \theta, z = -5r$